

甲賀市を中心とした
人・物・情報・経済ネットワーク

交流都市・ 甲賀の飛躍

日本のほぼ中央に位置する甲賀市は、古くから東海道や伊勢大路といった主要街道が通る交通の要衝として栄えてきました。平成20年に開通した新名神高速道路は1日の平均通行車両が開通前の予測をはるかに上回り、市内にインターチェンジ3か所を持つ本市は交通アクセスが著しく強化されました。県内の工業団地の約40%が集積する工業都市として物流コストの低減や時間距離の短縮は、大消費地の大阪・名古屋から100キロ圏内という立地優位性をさらに高めています。

今後も甲賀市飛躍の起爆剤になることが期待されるインフラ整備が控えています。現在、地域高規格道路として計画されている名神名阪連絡道路と接続する甲賀土山IC周辺は、物流や産業の新拠点として企業等の進出が予測されています。また、近い将来、リニア中央新幹線が開通すれば近畿地域の東の玄関口であると同時に、「西日本と東日本」「日本海側と太平洋側」の文化・産業の結節点となる甲賀市は、地域間交流が拡大することによって地域経済の活性化や市内への移住・定住の促進が期待されます。

戦略的に新名神高速道路を活用